

# はくさん

第40巻 第1号

## 目次

**P 1**  
白山山頂の火口群

**P 2**  
「幻の動物がいまや  
里山にも」白山山系  
のニホンカモシカ  
水野 昭憲

**P 9**  
白山国立公園指定  
50周年

**P12**  
中宮温泉ビジターセ  
ンター・中宮展示館  
リニューアルオープン  
(1)

**P 14**  
山のまなび舎だより

**P16**  
フォトギャラリー  
たより



## 白山山頂の火口群

白山は活火山に分類されています。現在の山頂部から火山活動を開始したのが今から3、4万年前で、活動は歴史時代まで続きます。古文書に噴火の記録が残されており、最も新しい噴火が1659年です。それ以降は表面的には静かですが、将来活動を再開する可能性があります。

白山が火山であることを示すものの代表が、山頂部の火口群です。最大のものが、写真下の翠ヶ池です。火口の凹地に水がたまったもので、長径は約100mです。右上の雪で埋まっているのは、千蛇ヶ池の火口です。白山を開山したといわれる泰澄大師が、悪さをした蛇をここに封じ込め、万年雪でふたをしたという伝説が残されています。室堂（写真上に赤い屋根がみえる）に宿泊した登山者のほとんどの方は、御前峰（標高2,702m、写真左上の峰）へ登り、ご来光を仰いだ後、この火口群が分布する地域へ降りて、これらの池などを巡って室堂へ帰るのが一般的です。

（東野外志男、写真：小澤外志男氏提供）

# 「幻の動物がいまや里山にも」 白山山系のニホンカモシカ

水野 昭憲（石川県立自然史資料館）

ニホンカモシカ（ウシ目ウシ科 *Capricornis crispus*）がわが国固有の希少な動物であることから「特別天然記念物」に指定された1955年ころ、そして白山が国立公園に昇格した1962年ころには、それは人が入れないような険しい山奥だけに住む「幻の動物」とも呼ばれていました。ところが今では、金沢の郊外でも出会うことがある、まったく珍しくない動物になっています。白山山系の石川県側でカモシカがどのように分布を広げてきたのか、その背景に何があったのかを、過去約50年間の情報を振り返りながら分析しました。

第二次大戦後、加賀地方の山地から山麓にかけての人々の生活形態・産業構造が大きく変貌しました。この地域の森林性動物を代表するカモシカの分布拡大は、白山ろくの森林環境の変化と、人々の野生動物に対する意識の変化がきっかけで起こったものでした。

## カモシカ分布の研究

白山のカモシカは、全国的にみても早くから生態研究の対象でした。白山国立公園が指定されたのを受けて1968年から実施された総合学術調査の一環で、わが国で初めて流域単位の個体数推定が行われました。筆者のカモシカとの関わりはこの調査団の一員として、手取川の上流奥深くを歩き回ったことから始まっています。その後実施した、遠くからでもカモシカの姿が確認できる積雪期の直接観察により密度を推定する定点観察法は、多雪地でのカモシカの個体数推定の有効な方法として各地で応用されるようになりました。

岐阜県や長野県でカモシカによるヒノキ幼齢木への被害が社会問題になった1973年頃から、各地で本格的な生態調査が始まりました。1979年以降文化庁によって白山を含めた全国15か所に設定



里山に現れたカモシカ親子

された「特別天然記念物カモシカ保護地域」での生息密度と環境のモニタリングは、関係都府県によって組織的かつ継続的に実施されています。また、保護地域よりもはるかに大きな広がりを持つ地域個体群の動向については、環境省が数十年おきに実施している「自然環境保全基礎調査」（緑の国勢調査）などによって、クマ・ニホンザル・シカ・イノシシなどととも全国規模の分布消長が整理されるようになりました。これらの調査から、カモシカが全国的に分布を大きく拡大している傾向が明らかになっています。

## 分布情報を集める

筆者は、1967年から手取川上流域のカモシカ調査に参加し、1971年からは白山自然保護センターの一員として白山ろくに在住して以来、カモシカの保護管理の基礎資料となる分布や人間活動との関係などに関する情報を収集してきました。できるだけ直接観察をしたかったのですが、広域には地域

住民などからカモシカの生態と分布を聞き取ってきました。

山村集落を一つ一つ訪ねてご老人や猟師、林業関係者などから、そこでは何年前に初めてカモシカを見ましたかと問いかけ、話を聞きます。多くの場合、カモシカを初めて見た時の情景はかなり正確に思い出してもらえますが、いつだったのかとなると季節くらいは覚えているものの、5年前か10年前かなといったように曖昧なことが多く、慎重に聞き取る必要があります。それまでいなかったところに新たな情報があった場合には、痕跡を探したり、改めて冬にその地区へ出かけて足跡を探すなど、できるだけ自分で確認するように努めました。

合計約 3,000 件の記録から、同一地点での情報は古い方だけを残し、約 800 件の情報を国土数値情報 1 km メッシュに置き換え、地図上で分析しました。そこから、カモシカが初めて観察された年をもとに 1955 年から 2005 年までの 10 年おきの分布前線を推定しました。市街地、大きな集落や水田地帯を除いて森林が連続しているときは、確認地点を結び分布域を求めています。分布面積は、その範囲に含まれる 250 m メッシュの個数から計算しました。

### 白山山系の昔のカモシカ分布

カモシカが特別天然記念物に指定された 1955 年より前の分布範囲を推定することが最初の作業でした。これには、白山山系の福井県・岐阜県・富山県側の山村集落も順次訪問して多くの方々から貴重な話を聞きました。筆者がこのことを始めたのは 1970 年代でしたが、その時点から約 20 年前のことはなんとか思い出してもらえて、その結果から白山を取り巻く元の分布域を推定することができました。

白山では夏だけ村から離れた山へ移動して畑作をする「出作り」が行われていたことが知られています。出作りの位置は、現地での聞き取りに加え、白山山麓の出作り分布図などを参考にし、1950 年代の山間の小集落と出作りの分布図を作成しました。広い範囲で出作り生活が盛んに続けられていた 1953 年に国土地理院が修正発行した 50,000 分の 1 地形図も役に立ちます。この頃の地形図には、山の斜面に畑の記号があり、家屋や出作り小屋も明瞭に書き込まれています。これらから出作り小屋

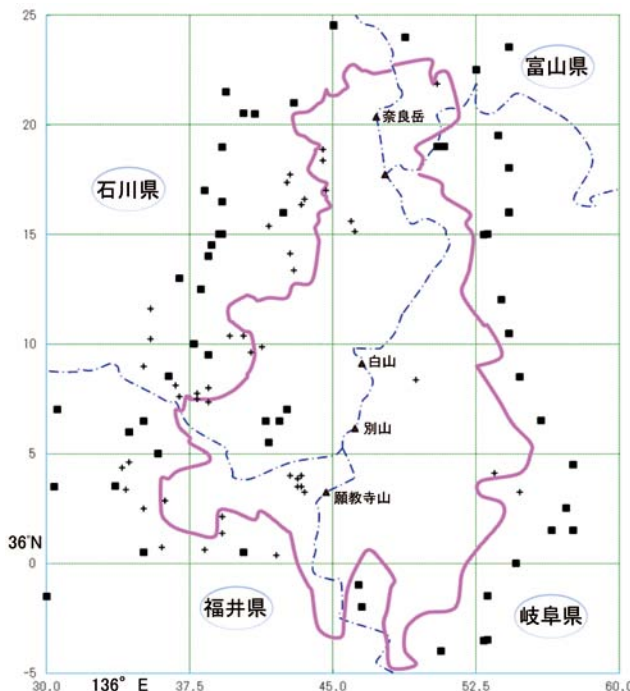


図1 白山地域における 1955 年頃のニホンカモシカと出作りの分布域  
 線で囲んだ部分がカモシカの分布域  
 ■ 当時の集落位置、+ 出作りの位置

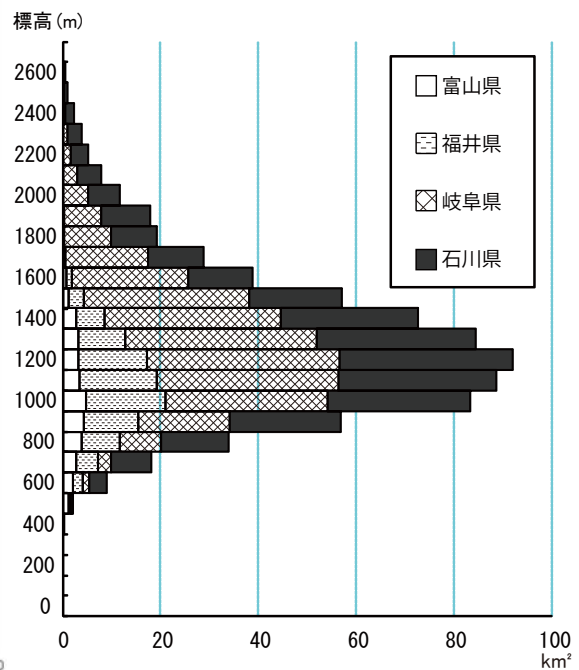


図2 白山地域の 1955 年の標高及び県別のニホンカモシカの分布面積

と畑地を読み取り、特別天然記念物に指定される前のカモシカ分布の推定範囲と重ねてみました（図1）。

白山のカモシカは、昔から標高おおよそ 1,000m 以上の山で生活する人たちもまれにしか行くことがない険しい奥山にだけ残っていたことが分かります。その面積は、約 750 km<sup>2</sup>と推定できました。岐阜県と石川県にあたる部分がそれぞれ約 300 km<sup>2</sup>でした。そのうち、厳しい冬には分布していないと思われる亜高山帯以上を除けば約 600 km<sup>2</sup>でした（図2）。

### カモシカの生存と分布の条件

山間部では機会さえあれば狩猟され、とくに保護対策がなかった長い間も、白山山系でカモシカが絶滅することなく生存していたのは、驚くべきことでした。その要因として考えられることを列記しましょう。

- ①冬期には広い範囲が無人で、夏期にも亜高山帯から上にカモシカが残れる無人地帯が存在した。
  - ②山地帯の各所に急傾斜地が多く、人や肉食動物からの逃げ場が確保できた。
  - ③白山では農林業や人への被害は少なく、害獣扱いされることが少なかった。
  - ④基本的に単独生活者であることから、群れとして捕り尽くされることがなかった。
- といったことがあったのでしょう。

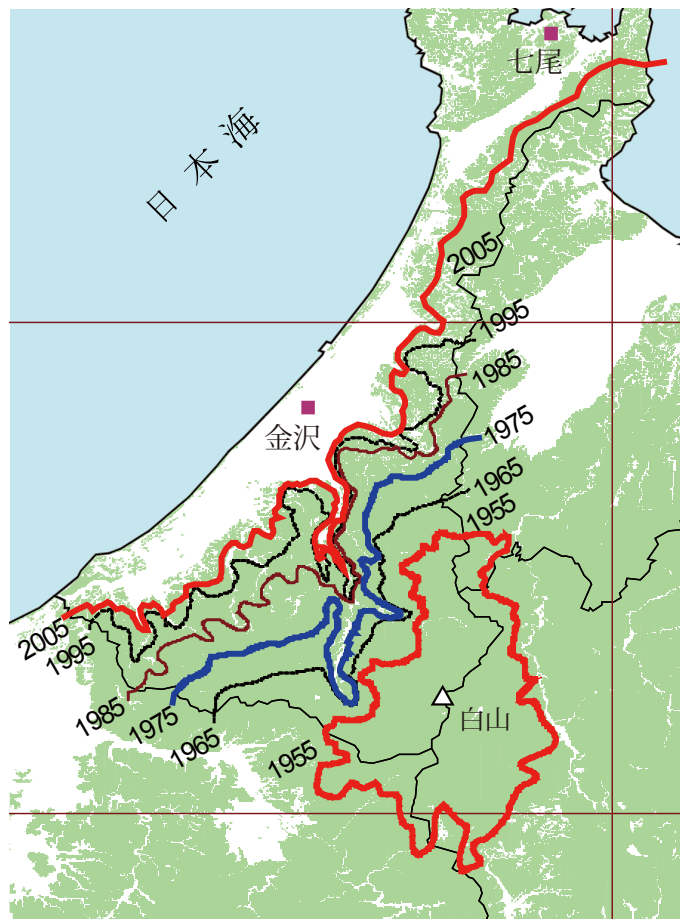


図3 1955年から2005年までの石川県におけるニホンカモシカの分布の拡大。10年ごとの分布前線。薄い緑で示した地域は林地。

### 加賀山地のカモシカ分布面積の変化

石川県内のカモシカの分布推定面積は 1955 年に 306km<sup>2</sup>であったものが、その後 10 年おきに 501km<sup>2</sup>、717km<sup>2</sup>、1,041km<sup>2</sup>、1995 年には 1,292km<sup>2</sup>に拡大しました。2005 年には口能登と呼ばれる宝達山・石動山まで広がっていて、その面積は約 1,500 km<sup>2</sup>になります（図3）。

1955 年には標高 1,000 m から 1,500 m が分布の中心であったものが、高地から順に低地へと分布域が広がってきました。山麓の農業地帯に近づくまでは、ほぼ一定の速さで、前線が低山方向へ進んでいることがわかります。前線が広がる速度は、平野部などに来て行き止まりになった部分を除いて、平均して 10 年ごとにほぼ 8 km となりました。

分布地の地形要素としては、標高が最も重要と考えます。10 年ごとのカモシカ分布域について、その範囲に含まれる 250 m メッシュの標高別頻度を分析しました（図4）。

分布拡大前線には、周辺よりいち早く観察される地形の急峻な谷がいくつかありました。ヒトやイヌも近づきにくい急傾斜地で、そのような地区を分布拡大の前進基地とすることができます。斜面では雪崩が発生し高木が成長できないために植生の遷移が進みません。そこは積雪期でも地表が現れていることがあり、春一番に若草が芽吹くので、カモシカにとって重要な採食地になることを指摘できます。急傾斜地に適応した彼らにとっては、地形的には標高よりも傾斜が急であることのほうがより重要であるとも言えます。

## 山地でのカモシカの分布拡大と 人間活動の変化

第二次大戦後のわが国の山村の社会的変革は、加賀山地でも急激なものでした。人間の圧力によって険しい山岳地に閉じこめられていたカモシカの分布拡大のきっかけは何だったのでしょうか。第二次大戦後の白山地域の山地の社会的・経済的变化を①焼畑と炭焼き期、②過疎進行期、③観光開発期の3期に区分し、人間活動の変化とカモシカの分布との関係进行分析しました。

### 焼畑と炭焼き期（1950年代まで）

1950年代までは、山地では古くから出作り・焼畑・炭焼きといった生業形態が続いていました。加賀地方の山間部ではカモシカのことを古来「ニク」と呼ぶことが多かったようです。「ニク」とは元来「褥(しとね)」つまり寝床に使える毛皮の意だったが、肉という意味で使っていたこともありました。どちらにしてもカモシカが昔から人間にとっては利用資源であったことを物語っています。

法律上は1925年に狩猟獣から除外された動物ですが、1960年頃までは季節を問わず機会があれば獲られて食べられていたことは間違いありません。この時期まで狩猟法の思想が普及しなかったのは、山村が孤立的・閉鎖的環境のなかで、外部からの規制といえる狩猟の制限を受けにくかったからでもあります。1959年に全国でカモシカ密猟の取り締まりが実施されたのを契機に、多くの住民が、カモシカは保護獣かつ特別天然記念物であり、捕獲したり食べたりすると罰せられると意識するようになりました。同じ頃に、交通の発達で町からの新鮮な食肉や魚介類が山村に供給されるようになり、野生動物の肉の相対的価値が低下したこともあります。カモシカが分布域を広げた最大の要因は、多くの行政関係者が説明するように特別天然記念物という法律的な捕獲規制の成果というより、山地で活動する人口の減少とカモシカの利用資源としての価値低下によるものであったと考えます。

### 過疎進行期（1960年代）

1960年代には戦後の食糧難が一段落し、焼畑と出作りが次々に放棄されました。町での薪炭燃料から石油・ガスへの変化で木炭需要が減少し、林業の低迷から山で主に林業に就いていた人々は他に仕事を求め、

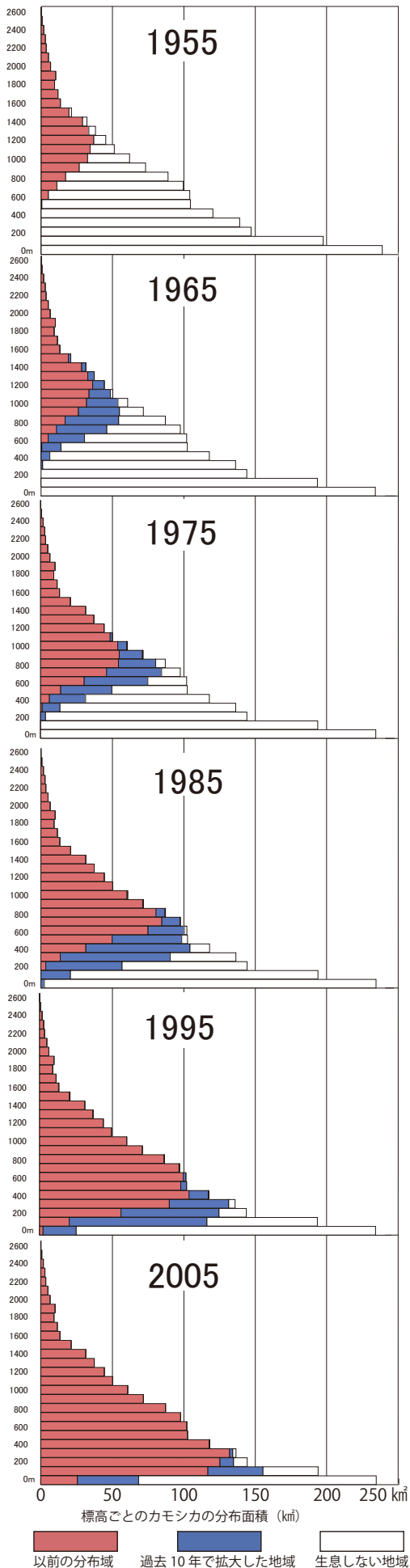


図4 加賀地方の山地における標高別ニホンカモシカの分布面積の変化

若者の村離れなどから山村の人口減少が顕著になり、いつも山で作業する人が急減しました。1970年代には高等学校への進学率が急に高くなります。遠くの高等学校への通学が困難な山村では、高校進学は若者の山村離れに直結します。このような急激な山村の変化によって、石川県側では焼畑期には標高 1,000 mあたりに人間の活動前線があったものが標高約 600 mまで後退し、人に追われていた野生動物が生息できる範囲が拡大しました。この頃にはニホンザルの群れも手取川の下流方向へ遊動域を拡大し始めています。1960 年前後に各地で放棄された焼き畑と木炭の原木を伐っていた跡地、さらに拡大造林の後の下刈りが行われていた山では、カモシカが好んで食べる草本や灌木が豊富で、分布拡大と増殖を助けてきたと考えます。

### 観光開発期（1970 年代以降）

1970 年代以降、山村は人口減少をくい止めようと大規模土木事業、林業構造改善事業、観光開発などに努力を払ってきました。温泉開発やスキー場建設などの山村のリゾート開発にともない、村外からの観光客への危害を心配して野犬が駆除され、飼犬は嚴重に繋がれるようになりました。それまでは、どこの農山村でも柴犬のような中型犬が普通に村の内外を歩き回っているという光景が思い出されます。野良犬や放し飼いの犬は野生動物を集落から遠ざけ、人々と動物との間に緊張を保つ役割をも担ってきたと思われるが、それ以降サルやクマと同じように村落周辺や道路への出没が頻繁になった要因の一つでもあるでしょう。

カモシカによる植林幼木の食害は白山山系では少なく、他の地方より遅くまで駆除の要請に至ることはありませんでした。白山山系で植林した針葉樹へ被害を及ぼすことが少なかった理由の一つとして、食物の不足しがちな冬期間に積雪地特有の常緑植物が多いことがあげられます。北陸地方の山地に多いヒメアオキ、スゲ類、ハイイヌガヤ、ササ類など冬でも緑の葉を付ける植物やヤナギ類、ハンノキ類、カエデ類の冬芽や小枝はカモシカの重要な食物です。

### 山麓でのカモシカの分布拡大と人間活動の変化

その後低山の丘陵地帯までカモシカが分布域を広げ、市街地の近くの里山にまで頻繁に出てくるようになってみると、そこでも村の人口減少、少子化と高齢化、農林業離れ、都会への通勤通学に伴う住民の山離れが始まっていました。農林業に関する統計から、白山ろくの農山村地域の農家数は現在まで減少傾向が続いています（図 5）。1950 年から 1975 年までの専業農家と第 1 種兼業農家の第 2 種兼業化が顕著です。

農山村地帯の人口減少の結果、各地で小集落が廃村化し、ごく少数の住民が細々と生活している集

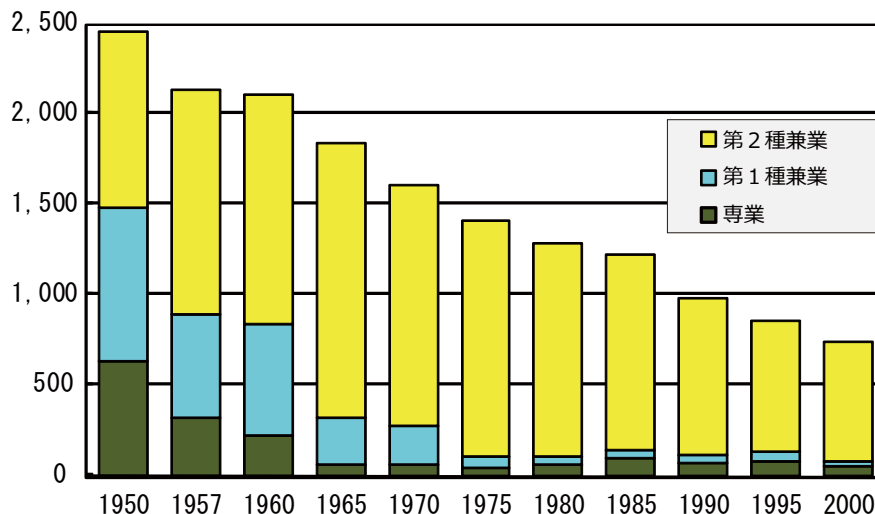


図 5 白山ろく農山村の農家数の変化  
第 1 種兼業は農業を主とする農家。第 2 種兼業は農業が副業または自家用の農家。

落が目立つようになってきました。減反政策によって効率の悪い山あいの小さな水田での耕作がほとんど無くなったのは 1980 年代からです。

拡大造林が盛んであった頃に植林されたスギ林は、間伐などの手入れがなされないまま伐期に達しても伐採されない林も多く見られます。市街地に近い里山は、かつては町への薪炭の供給地でもあったはずですが、現在では樹齢数十年の成林した植林地と自然回復した落葉広葉樹林が続いています。このような山麓地帯は、多くの野生動物にとっての絶好の生息適地になったのです。

道路が良くなり農山村と市街地との距離が近くなったことから、都市部へ通勤する住民が増加しました。雑木林へ入るといえば趣味の山菜やキノコ採集、レクリエーションがあるくらいです。ベットタウン化した山あいの住宅地では人口が増加していますが、その住民の多くは都市出身で市街地へ仕事に行くので、その生活スタイルが里山地帯の動物への圧力にはなりません。

かつては毛皮と肉が重宝されたものの、1950 年代ころから追われることが少なくなったカモシカが人間への恐怖を失うのに、数世代あるいは数十年は必要だったでしょう。人が減って静かになった里山へ出るようになったカモシカは、その後は人や集落を避けることもなくなりました。今後さらに分布拡大が進めば、カモシカが能登地方で拡がることは予想できますし、彼らの生息が可能と考えられる森林地帯は十分広く、ヒノキやアテの植林が多いので、林業に被害が発生する恐れもあります。

### 住民の動物観が大きく変わった

カモシカなどの野生動物を考えるにあたって、「貴重な動物」、「食用」、「害獣」、「愛護の対象」、「観光資源」などいろいろな観点があります。山村住民の間では「珍しい」動物であるという意識は薄れましたが、都市の人の中にはカモシカの分布が拡大したことをよく知らず、珍しい動物であるとの意識を持ち続ける人がいまだに多いでしょう。

都市部の住民に森や野生動物などを利用の対象というより、保存保護の対象とみなす意識が高まりました。これらの意識変革は、情報と意識の画一化の時代で都市部住民と農山村住民の双方に同じように起こったとみられます。これらの意識の変化も、カモシカが人に対する警戒を緩める要因となりました。これらの自然や動物保護への意識改革が定着するのは、わが国では 1971 年に環境庁が発足した頃と見ています。いよいよカモシカが里山へ進出しようという時代と合致しました。

表1 白山山系の二ホンカモシカをとりまくできごと

年	主なできごと
1925 年	「狩猟法施行規則」でカモシカが狩猟鳥獣から除かれ、狩猟禁止になる。
1934 年	「史跡名勝天然記念物保存法」によりカモシカが「天然記念物」に指定される。
1950 年代まで	白山麓では炭焼き・出作りが盛ん。見つけ次第に毛皮用・食用に捕られていた。
1955 年	「文化財保護法」に基づき、カモシカが「特別天然記念物」に指定される。
1962 年	白山国立公園の指定。カモシカは極めて珍しい動物であった。
1960 年代	白山で炭焼き・焼畑が衰退。林業従事者の減少が始まる。
1966 年	白山でカモシカなどの生態学的調査が始まる。
1969 年	「国設白山鳥獣保護区」の指定。この頃まで機会があれば捕って食べられていた。
1970 年代	肉・毛皮用の価値が低くなった。白山でカモシカの低山への分布拡大が始まる。
1981 年	カモシカの観察に、石川県白山自然保護センターがブナオ山観察舎を開館。
1982 年	「白山カモシカ保護地域」の設定（文化庁、53,662ha）。
1980 年代	金沢市などの市街地近くにもカモシカが姿を見せるようになる。
1990 年頃	太平洋側よりも約 10 年遅れて、岐阜県白川村などで植林被害が顕著になる。
1995 年	岐阜県白川村で初めて有害鳥獣駆除の許可が出され、少数の駆除が始る。
2000 年頃	倶利伽羅峠を越えて、宝達山系でカモシカが見られるようになる。
2001 年	金沢市夕日寺や角間周辺で初めてカモシカが確認される。
2004 年	七尾市でもしばしば見られるようになる。



我が家の窓をのぞきにきた老いたカモシカ（白山市中宮で）



人もカモシカもお互いに無関心を装う（金沢市野田山で）

### まとめ

過去半世紀の間に、白山を取り巻く人間社会にいろいろなことがありました。それらの別べつのような事件が同時または相前後して起こったことが、カモシカの生息環境を大きく変えたといえます。箇条書きに整理します。

- ①いわゆる燃料革命による木炭需要の低下から、多くの山村住民の重要な収入源が無くなった。
- ②盛んになった発電所建設、砂防工事、道路建設などの土木事業の拡大で賃金労働の雇用口が増えた。
- ③山の主要な産業であったスギ材の価格低迷から林業の経営が困難になり、林業から賃金労働者への転向が急増した。
- ④高等教育の普及により若者が都市部への流出し、山村の人口減少が進んだ。
- ⑤町との物資の流通が盛んになり、山村でも魚介類や肉が調達しやすくなったことから、野生動物の肉の価値が低下した。
- ⑥特別天然記念物の指定に続く狩猟規制の強化があり、貴重な動物であるとの意識が普及した。
- ⑦追われることが無くなって、人間の存在に対する恐怖心を弱めたカモシカは、町の近くにも住むようになった。

山地でのカモシカの分布拡大は、1950年代まで長年続けられてきた焼畑と出作りが放棄され、木炭生産が衰退したことで、人間活動が急に少なくなったいわゆる空き地への進出から始まったものでした。法律的な規制よりも、地域の産業構造と住民の生活様式の変化、そして野生への意識の変化の結果であると言えます。一時は絶滅の危機に瀕した大型動物が、人間が活動している地帯まで分布を拡大しながら、トラブルがほとんどないのは、わが国の歴史上にも他に例は少ないでしょう。

動物は「かわいい」と愛護する立場と、害獣という面を強調し殺して捨てるという、両極端が相容れない動物観の衝突があります。野生動物は古くから自然の幸として利用してきたことを再確認することも必要です。ヒトが大型の野生動物と共存していくためには、動物との間に緊張を保ち、人と野生動物が住み分けることを模索し続けなければなりません。

白山山系は、人間と野生動物とのトラブルが少ない地域であること、ほぼ半年におよぶ積雪期に広大な無人地帯が出現することなどから、これからも動物を自然状態で保全していける貴重な地域と言えます。カモシカのような大型の動物が、肉食動物や人間からの補食圧をほとんど受けることなく、半世紀にわたって個体数を増やし分布を広げてきたことは、世界的にもほとんど例がないはずです。これからも白山山系のカモシカの動向は注目され続けてよいでしょう。





# 白山国立公園指定50周年

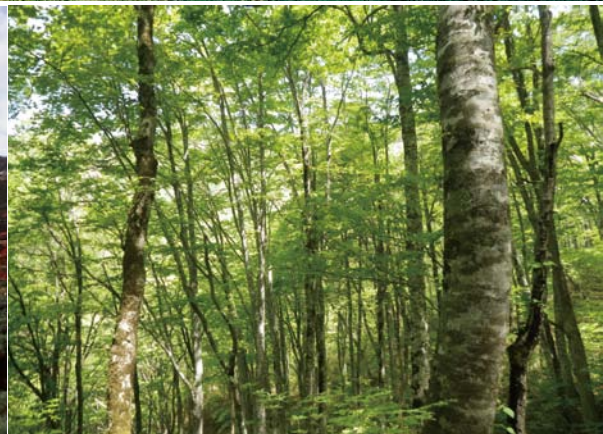
～白山は水と命の源 未来に引き継ぐ私たちの宝～



- ◆白山国立公園の存在価値を再認識する
- ◆白山国立公園の将来像を描き、共有する
- ◆白山の恵みに感謝し、守り育てる地域社会を形成する。



白山山頂部の紅葉。



新緑のブナ林。

白山を中心とする「白山国立公園」は、高山植物や広大なブナ林、野生動物等、日本でも数少ない貴重な自然が残されています。今年、この白山国立公園が昭和37年11月12日に指定されて50周年を迎え、これを記念して環境省、関係4県（石川・岐阜・福井・富山県）、6市1村（白山・高山・郡上・勝山・大野・南砺市、白川村）、及び関係団体等が実行委員会を組織して、白山国立公園指定50周年記念事業を実施します。事業内容としては、5月26日のキックオフイベントを皮切りに、白山講座、登山教室、白山禅定道登山、記念式典や、白山麓スタンプラリー、フォトコンテスト等が行われます。その他、白山および白山麓の豊かな自然や文化を体験できる約80の事業がパートナーシップ事業に認定されています。これらの事業に多くの方々に参加され、白山の魅力を再発見していただければと思います。詳細については「白山国立公園指定50周年記念 イベントガイド」やホームページ (<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/hakusan50shunen.html>)などを参照して下さい。

## キックオフイベント（中宮温泉ビジターセンター・中宮展示館）

白山国立公園指定50周年記念事業のキックオフイベントが、5月26日に石川・岐阜・福井・富山の各県で一斉に行われました。石川県の会場は中宮温泉ビジターセンター・中宮展示館で、竹中博康石川県副知事と神田修二環境省中部地方環境事務所長があいさつし、山田憲昭石川県議会議長と桶屋幸藏白山市副市長が祝辞を述べました。また、地元小中学生によって和太鼓が演奏され、白嶺キッズレンジャーによる未来を担う子供たちのメッセージも披露されました。式典の後は、参加者がリニューアルオープンした中宮温泉ビジターセンター・中宮展示館の展示を見学しました。他に、白山ガイドボランティアによる蛇谷自然観察路での自然観察会や、春の白山スーパー林道ウォーク（パートナーシップ事業）も行われました。



関係者によるテープカット。



白嶺キッズレンジャーによる未来を担う子どもたちのメッセージ披露。



地元小中学生による和太鼓の演奏。



リニューアルした展示を見学する参加者。



蛇谷自然観察路での自然観察。

## フォトコンテスト

- ◆テーマ：白山国立公園の特徴ある自然景観や雄大な風景、そこに生息、生育する動植物、白山の自然を舞台に活動する人々の営み、登山やキャンプなどの利用者の様子などを捉えたもの。
- ◆賞：環境大臣賞(1点)、実行委員会会長賞(1点)、白山菊酒賞(1点)、環白山保護利用管理協会賞(3点)、自然人賞(4点)、佳作(10点)
- ◆応募期間：平成24年10月10日(水)(消印有効)
- ◆応募方法など：応募方法など詳細については、フォトコンテストのチラシ、ホームページ([http://chubu.env.go.jp/pre\\_2012/data/0608aa.pdf](http://chubu.env.go.jp/pre_2012/data/0608aa.pdf))を参照、もしくは環境省中部地方環境事務所(〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸2-5-2 TEL:052-955-2135)へお問い合わせ下さい。



## 白山麓スタンプラリー

- ◆ルール：環白山地域4県内の白山関係施設12か所で、集めたスタンプ数に応じた賞品を抽選でプレゼントします。
- ◆商品：A賞(3,000円相当の地元特産品)抽選で30名様。スタンプ5個以上。B賞(1,000円相当の地元特産品)抽選で70名様。スタンプ3個以上。
- ◆スタンプ設置施設  
 (石川県)：中宮温泉ビジターセンター(中宮展示館)・白峰特産品販売施設「菜さい」・市ノ瀬ビジターセンター  
 (岐阜県)：道の駅飛騨白山・白水湖畔ロッジ・道の駅桜の郷荘川・白山中居神社・道の駅白鳥  
 (福井県)：はたや記念館「ゆめおーれ勝山」・道の駅九頭竜  
 (富山県)：五箇山民俗館・桂湖ビジターセンター
- ◆開催期間：2012年5月末～10月末
- ◆応募方法など：「イベントガイド」(上記スタンプ設置施設等で配布)に付いているスタンプ用紙・応募封筒を使用して下さい。



## 記念式典

記念式典が、11月10日(土)に開催されます。白山国立公園の指定50周年を記念し、関係者が集い、白山国立公園の豊かな自然や環境を次の世代に継承すると共に、その魅力を広く内外に発信します。式典では、自然公園功労者や白山の保護と利用に尽力された方々の表彰も行います。

白山国立公園指定50周年記念式典		自然公園ふれあい行事	
午前	11:00～12:00 白山市鶴来総合文化会館クレイン・大ホール <b>■ 式典</b> ◎オープニング(郷土芸能、白山の紹介映像) ◎開会宣言、式辞 ◎実行委員会会長あいさつ、来賓祝辞 ◎歓迎の言葉 ◎自然公園関係功労者表彰 など	10:00～17:00 白山市鶴来総合文化会館クレイン	<b>■ パネル展</b> (ギャラリー) ◎フォトコンテスト作品展 ◎白山国立公園50年の歩みパネル展 ◎関係市村、観光協会等の紹介 ◎環白山境界やエコツーリズム活動、環境省・関係団体の取り組みの紹介 ◎ジオパークの紹介 など
午後	13:00～16:00 白山市鶴来総合文化会館クレイン・大会議室 <b>■ 記念講演</b> 講師：未定 「白山国立公園の歩みを振り返り、自然と人との共生のあり方を考える」 <b>■ シンポジウム</b> パネラー：未定 「白山と水、いきもの、信仰、文化(仮) 50周年宣言まとめ(予定)」	<b>■ ふれあい広場</b> (屋外等) ◎特産品の展示販売 (関係市村の観光協会・商店・企業…) ◎環境保全に取り組む企業等のブース など	

## 中宮温泉ビジターセンター・中宮展示館リニューアルオープン (1)

中宮温泉ビジターセンター・中宮展示館は、白山を訪れた人々に白山の自然や人と自然との関わりについて、深く学んでいただく施設です。昨年から、館内の展示のうち約半分の部分について改修が行われ、5月26日(土)に開催された白山国立公園指定50周年記念事業のキックオフイベントに合わせて、リニューアルオープンしました。今号と次号で主な展示改修を紹介いたします。リニューアルした展示館にぜひご来館いただき、白山の自然に親しんで下さい。11月10日まで開館です。



### 「ガイドコーナー・蛇谷観察路ガイド」

蛇谷観察路ガイドでは、カタクリやブナ、鳥たちのさえずりなど、観察路での四季折々の自然を紹介しています。観察路のニホンザルの情報も、ここで得ることができます。



### 「こぶブナ」

チプリ尾根にあった樹齢300年から400年といわれるブナの巨木で、2008年に寿命を迎え、立ち枯れました。根もとのこぶの部分展览展示しています。





「ようこそ白山国立公園」

全国で30か所指定されている日本の国立公園や1962年に指定された白山国立公園、国立公園と生物多様性などについて解説しています。



「植物を楽しむ・哺乳類と出会う・野鳥を観察する」

白山地域の代表的な植物や哺乳類、野鳥を紹介しています。展示パネルには、ホシガラス、ニホンリス、ヤマセミのはく製が、展示パネル前のガラスケースには、ブナの実、カタクリの根、ハイイロチョッキリに切られたミズナラの茎と実等が展示してあります。



「昆虫を見つける・川の生き物とふれあう」

白山に4,000種以上も生息している昆虫や、イワナを代表とする溪流の生き物たちを紹介しています。また、主な昆虫を標本で展示してあります。

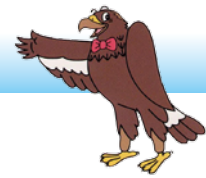


「ペレットストーブ」

地球温暖化対策として、木くずを固めたものを燃料にしています。直接炎を見ながら温まることができます。

# はくさん 山のまなび舎だより

中宮展示館のキャラクター・イヌワシ君



## 白山まるごと体験教室

### 早春の花 カタクリ大群落に出会う

4月30日、中宮展示館で行われました。今年度は午前、午後の2回に分け、延べ56名が参加し、一面に咲き誇るカタクリの花に感激していました。参加者は白山自然ガイドボランティアの案内で展示館裏の自然観察路、猿ヶ浄土コースを巡り、お花畑のようなカタクリの大群落をはじめ、キクザキイチゲやミヤマキケマンなど早春の花を堪能していました。野上達也白山自然保護センター専門研究員から春植物と昆虫の話もあり、自然の不思議さ、楽しさを感じとっていました。

### 赤紫のお花畑に感激



カタクリの大群落を楽しむ参加者

### 新緑のブナ林 白山禅定道を歩く 白山の自然と歴史に触れる

5月27日、市ノ瀬ビジターセンターで36名が参加して行われました。好天の下、参加者は白山自然ガイドボランティアらの案内で、同センターから白山禅定道（旧越前禅定道）を指尾まで往復しました。今回、初めて取り入れたコースで、急坂もありましたが、全員無事に歩き通し、新鮮やかなブナの森を楽しむとともに、かつての信仰登山の跡をたどり、白山の歴史にもふれました。



ブナの原生林の中を歩く



指尾で白山の眺望を楽しみながら弁当を広げる

## 白山麓里山・奥山ワーキング

### 白山まもり隊-探って楽しむオオバコ茶- 外来植物の侵入防止に一役

6月24日に、登山口の市ノ瀬駐車場において、外来植物のオオバコの除去作業が、白山自然保護センターと環白山保護利用管理協会の主催で行われました。当日は、子供から大人まで、117名もの多数の参加がありました。白山国立公園の外来植物についての話を聞いた後、全員で駐車場のオオバコの除去を行い、56.2kgものオオバコを除去しました。作業の後は、オオバコの試飲も楽しみました。



熱心にオオバコを除去する参加者



市ノ瀬ビジターセンターのキャラクター・チブリ

# しぜん もりだくさん

## 白山自然ガイドボランティア

### 第1回・第2回研修講座 救命救急講習と自然観察の素材探し

白山自然ガイドボランティアの今年度の研修講座が、5月2日（第1回）と6月9日（第2回）に開催され、参加者は42名と33名でした。第1回目は、白山国立公園センターで救命救急講習やAEDの使い方を、白山消防署白峰分署の職員から受けました。第2回目は、帝京科学大学の小林毅氏を講師にお招きし、中宮展示館において、インタープリーテーションのための素材探しやボランティア間の交流活動などについて講義を受け、野外指導も受けました。



AEDを用いた救命救急を学ぶ参加者

## 白山県民講座

### 白山登山と高山植物の集い 夏山に期待膨らむ

6月2日、白山市倉光の白山市民交流センターで131名が参加して開かれ、参加者は夏山登山への期待を膨らませました。白山自然保護センターと石川県自然解説員研究会の主催で、同研究会の森坂洋晴さんが「白山のこと、もっと知ろう」、木村明さんが「白山の高山植物」、同センターの東野外志男研究主幹が「白山火山」の各演題で白山の歴史や植物、火山活動などについて講演し、参加者は白山への理解を一層深めました。会場では白山に関する最新の資料が配布されたほか、登山相談や高山植物の写真コーナーも設けられ、関心を集めました。



登山相談に応じる自然解説員（右）

## センター主催行事 いしかわ自然学校「山のまなび舎」のお知らせ

### 白山まもり隊 白山外来植物除去作業 in 南竜ヶ馬場

日程：8月25日(土)～26日(日)  
場所：南竜ビジターセンター  
定員：50名  
参加費：4,000円  
内容：白山に侵入してきたオオバコなどの外来植物（低地性植物）の除去作業を行います。

### 白山まもり隊 白山外来植物除去作業 in 室堂

日程：9月8日(土)～9日(日)  
場所：白山室堂  
定員：50名  
参加費：4,000円  
内容：白山に侵入してきたスズメノカタビラなどの外来植物（低地性植物）の除去作業を行います。

### 木の実の観察と菓子作り

日程：9月22日(祝)9:30～14:30  
集合：中宮展示館  
定員：30名  
参加費：500円  
内容：クルミの入った地元中宮の郷土菓子“ねんぐあじ”を作り、中宮の民謡を楽しみます。

### トチノキ観察とトチモチ作り

日程：9月30日(日)9:00～15:00  
集合：市ノ瀬ビジターセンター  
定員：30名  
参加費：500円  
内容：トチノキの観察と実をトチモチとして食べるまでの苦労の一部を体験します

### アケビのつるでカゴ作り

日程：10月14日(日)10:00～15:00  
集合：中宮展示館  
定員：30名  
参加費：300円  
内容：アケビの観察とアケビのつるを使って、ぬくもりのある素朴なカゴを作ります。

### 申し込み・問合せ

いずれも申し込みが必要で、約1か月前から受付けます。定員に達し次第締め切ります。詳しくは石川県白山自然保護センター（076-255-5321）まで。

## フォトギャラリー ー自然のひとこまー



根倉谷園地のミズバショウ。今年は車道の開通が早く、見ごろに間に合いました。2012.4.28



車道に出てきたニホンアナグマ。車に驚き、慌てて草むらへ。白山公園線、2012.5.1



今年は赤ん坊をかかえたメスザルが目立ちます。春はサクラの花などを食べます。中宮展示館、2012.5.5



県指定準絶滅危惧種のギフチョウが、中宮展示館で初めて発見されました。2012.6.18

### たより

白山国立公園指定 50 周年記念事業のキックオフイベントが 5 月 26 日に行われました。様々な記念事業が、11 月にかけて行われますので、ぜひご参加ください。昨年から展示改修を進めていた中宮温泉ビジターセンター（中宮展示館）は、5 月 26 日のキックオフイベントに合わせて、リニューアルオープンしました。最新の知見が取り入れられ、親しみやすいものになっています。

白山の自然誌 32「ツキノワグマの生態」が発刊されました。白山の自然誌としては、すでに「白山のツキノワグマ」が出版されていましたが、それから 20 数年がたっており、最新の情報を取り入れて新版の冊子としてまとめたものです。ご希望の方は、送料として切手 140 円分を同封して白山自然保護センターまでお申し込み下さい。（東野）

### センターの動き（3月29日～6月29日）

4.9	白山自然ガイドボランティア研修講座（白山市）	5.20	外来植物除去作業ボランティア研修会（白山市）
4.24	白山自動車利用適正化連絡協議会総会（本庁舎）	5.21-25	野生生物研修（東京都）
4.28	中宮展示館開館（中宮）	5.26	白山国立公園指定 50 周年記念 いしかわキックオフイベント（中宮）
	市ノ瀬ビジターセンター開館（市ノ瀬）	5.27	白山まるごと体験教室 「新緑のブナ林白山禅定道を歩く」（市ノ瀬）
4.30	白山まるごと体験教室 「早春の花カタクリ大群落に出会う」（中宮）	6.2	県民白山講座 「白山登山と高山植物の集い」（白山市）
5.5	ブナオ山観察舎閉館（ブナオ山観察舎）	6.9	白山自然ガイドボランティア研修講座（中宮）
5.10	白山国立公園指定 50 周年記念事業実行委員会（県庁）	6.24	白山麓里山・奥山ワーキング「白山まもり隊 ー採って楽しむオオバコ茶ー」（市ノ瀬）
5.16	石川・岐阜山岳遭難救助対策協議会（白川村）		
5.17	白山国立公園指定 50 周年記念事業実行委員会 幹事会（白川村）		

はくさん 第 40 巻 第 1 号(通巻 163 号)

発行日 2012 年 6 月 29 日（年 4 回発行）  
印刷所 前田印刷株式会社

編集・発行

石川県白山自然保護センター  
〒 920-2326 石川県白山市木滑ヌ 4  
TEL.076-255-5321 FAX.076-255-5323  
URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/>  
E-mail [hakusan@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:hakusan@pref.ishikawa.lg.jp)